

令和2年度第1回御前崎市移動教育委員会

日時：令和3年1月25日（月）
午前10時00分～11時04分
会場：御前崎市役所 303会議室

1. 開 会
2. 挨拶
3. 報 告（幼児教育研究会）

御前崎市が抱えている乳幼児教育の現状と課題について

4. 意見交換
5. 閉 会

出席者 教育長 河原崎 全
教育委員 竹田和世、 下村勝、 島田恵美、 松林義樹
幼児教育研究会 さくらこども園長 河原崎睦美、 白羽保育園長 山下美幸

事務局 教育部長 長尾詔司、 学校教育課長 鈴木秀和
社会教育課長 小野田明人、 教育総務課長 高田和幸
学校教育課幼児教育指導員 笠原洋子
学校教育課指導主事 飯野由美子
こども未来課係長 山本真由子、 教育総務課係長 川村美穂

欠席者 なし

1. 開 会
2. 挨拶 教育長 河原崎 全
3. 報 告 御前崎市が抱えている乳幼児教育の現状と課題について

○さくらこども園長

- 長時間保育のニーズの増加により、幼稚園就園児が減少して、こども園、保育園就園が増加している。
- 保育士が不足して、待機児童が発生している。
- 預かり保育、緊急一時のニーズが高まっている。
- 家庭教育力が低下している。
- 子供が抱えている問題が複雑化している。
- 0から2歳児の入所希望が増加している。

4. 意見交換

○ 緊急一時保育は、どういう子供たちがそこに通えるのか。

- 園に入りたいが入れなかった子もいますし、保護者の体調、心理的關係、福祉關係で保育ができないために預かっている子もいます。緊急で1日だけ、保護者がどうしても保育ができずに子供を預かってほしいだけではなく、長く預かる子が増えてきているのが現実です。

○ 保護者からの要望があれば受け入れているのですか。

- こども未来課に申し込んで、そこから園に回ります。面接と保育は別の先生になるので、毎回違う先生に伝えながらになるところがなかなか難しいです。面接をした先生が専属にいて、その先生が見てくれるのが1番いいというのを、利用が増えてきた中で感じています。

○ 預かり保育とは、どういうものですか。

- 預かり保育は、幼稚園、こども園の短時間部で、保護者の働く時間が一定以上ある場合は、14時以降も子供を預かる形です。就労が条件です。フルタイムは働かないが、14時降園に間に合わない、15時、16時になる保護者のために、その時間も園で預かるという形です。
- 預かり保育が始まったのは、令和元年10月からです。園の無償化からで、今年は長期休業も受け入れを拡充しました。

○ 預かり保育は、夏休みの給食も無償なのですか。

- 無償です。保育園も全部無償なので、夏休みももちろんそうです。

○ 市外からの入園、入所園児が増加しているというのは、どのようなことですか。そのことで問題があるのですか。

- 幼稚園は学区制があるので、地区の子が地区の幼稚園に行きます。保育園については、特に学区制がないので、希望したところで調整させていただきます。
- 子供の問題が少しあります。地区の子は地区で育てて小学校に行くほうが、滑らかに接続されるということもありますので、できたら地区の子は地区の園で育つほうがいいのではないかという考えもあります。そういう点では、地区外から就園する子供たちは地区の外で生活していくことになるので、地区の中で育つという点で考えると課題だと思っています。

- 途中でその地区で空きが出たら、そこへ移動できるのですか。
 - そういうことは可能ではあると思いますが、通う園に慣れた子供の環境が変わってしまうので、それは子供にとっては負担が大きいところがあります。
 - 地区の中に幼稚園、保育園を入れて、そのまま小学校につなげることがいいということでやっていたのですが、保育ニーズが幼稚園ベースから保育園ベースに移ってきたことで、どうしても定員の問題が出てきて、学区内で子供を囲うことができなくなってきていることが事実あるところが、今、先生たちが言っている問題の一つなのかなと思います。
- たくさんの課題が挙げられていますが、予算が絡んでくるとなかなか難しいと思います。予算がかからないことで、1番改善できること、改善してほしいものというのは何でしょうか。これを変えると、制度的に非常にスムーズになるということを教えてください。
 - (回答がでてこない)
- 改善するためには、基本的には予算がかかるということですね。
 - 保育者が働きやすい環境ですとか、そこは自分たちの努力とか方法で、もう少し工夫をしていかなくはないかと思っています。
- 制度の問題になっているところというのはないですか。ルールの追加でスムーズにいくとか、妨げになる何かがあって、なかなか自由がきかないことがあるとか、そういうことは含まれていないのですか。
 - 多様なニーズに合わせて制度ができてきてしまうということで、逆にその制度に縛られて、園のほうの運営が大変になっている現状が見られるのかなと思います。
- いろいろなことに対応しなければならないがゆえの大変さがあるのではないかという感じがしてはいたのですが、やはり、1番の問題は人的なサポートということですね。
- 地方で、静岡県内でも端のほう、菊川、掛川に行っても御前崎はというところで、どうしても来てくれる人が少ないです。そういう不利な部分を金銭面で補うような方向に変えていかないと、人的なものはなかなか難しいだろうというのは、ずっと考えられているところです。保育の質の高さを保障するために、一生懸命職員の研修をされていますが、逆に若い先生たちが、それがちょっと苦痛になって辞められていくことが続いていると思います。0、1、2歳も、3歳と同じように支援を必要とする子にも手厚くされていますが、その辺が保育者の負担にもなっているので、預かり保育や0、1、2歳については、安全を預かるくらいにできれば、少しは楽になるのかなと思います。先生がたの質を今までどおり維持していきたいところと今の人たちの現状のギャップみたいなものがあるのかなという感じは、傍から見ていて思いました。
- 人件費に回せる予算というのは。
 - 保育料が無償になりましたが、人件費は、保育基準に従って計算できます。予算的な話よりは人員の確保が難しいのかなと思います。
 - 0、1、2歳では、先ほど、支援が必要な子も実際入ってきているので、そこに支援員が欲しいという話が出ました。今、0歳は3名、1、2歳は6名に1名という保育士の配置基準がありますが、実際、1人で0歳の子を3人見るとか、1歳の子を6人見るというのは、保育士にとっても肉体的にも精神的にもきついです。負ぶったり抱っこしたりが6人分かかるし、安全という部分では、目が離せない子が6人いるという状態は、かなり保育士にも負担

になっていますので、支援員でなくてもその定数が落として、そこに人が確保できれば保育士の負担が少なくなるので、就職してもいいかなという人が来るかなと思います。やはり、負担が少ないほうを選ぶということもあると思います。

- なり手を増やしていく方法論というのが、負担が大きいからむしろ避けてしまう可能性もあるということですね。
- あると思います。民間園とか企業保育所などがたくさんできていて、そこに働く人は割という感じがします。はっきりしたデータが手元にはないのですが。
- 潜在的にはいたとしても、ハードだからそこに抵抗を感じてしまう人たちがいるというのは、何か手を打つ方法がありそうな気がします。
- 事前に読ませていただいたときに、苦しくなりました。コロナの医療従事者が疲弊しているということを思い出して、本当に先生たちが疲弊されているなという気持ちになりました。小学校の低学年の子供が大きくなったら何になりたいかと言ったときに、幼稚園の先生は結構多いのになぜと考えたとき、風評被害ではないけれど、保護者の話でも、行事の準備なども含めて先生って大変だよねとなります。介護士の給料は、だんだん国が働きかけて上がってきてるように、保育士の給料が同じようになっていくといいなと思います。
- 市の子育て支援で緊急一時保育を行ったほうが充実するというのは、どういうことでしょうか。
- 来年度は、さくらこども園で1部屋確保して、緊急一時が専門の先生を入れてもらう形ですが、ゆくゆくは支援センターが独立したように、緊急一時も専門の機関で預かるほうが、園と一緒にやるよりもいい形になると考えています。独立した形になっていくと、子供も同じ先生に見てもらえるところが変われると考えました。
- 家庭教育が低下していることも、日本中でというか、見ているニュースでやっているだけじゃなくて、本当に身近でこういうことが起きているというのを改めて感じます。
- リフレッシュで保護者の方が使うということですが、月にたくさんの人数が使われているのですか。
- 基本は働いている方ということですが、それも可能だということになっています。お母さんたちもやっぱり子育てでいっぱいなので、そういう場合も使うのは可能ということですが、全てがそういうわけではないのですが、そういう場合もあります。
- リフレッシュでの使用というのは、現在、受け入れがちょっと難しいので、お断りさせていただいております。
- リフレッシュでの受け入れができないのは、核家族で子育てだけをしているお母さんは、苦しいというのはあると思います。
- 保護者に向けての教育みたいなのは、どんな形でやっていらっしゃるのですか。
- 講演会を園ごとに行ったり、連絡ノートで毎日の生活の様子を伝えたりします。幼稚園、こども園、保育園は、保護者のお迎えですので、毎日、担任なり保育士と話ができるところが、子供たちの顔色や様子だけじゃなくて、保護者の様子も感じることができますので、園内で共有したりしています。相談もそういうところで受けたりするということもあります。
- 昔は家庭教育学級があって、参観みたいに集まりましたが。

- それもあります。今年、本当にコロナでなかなか集まること自体ができないので、今は個々への対応が主になっています。

○こども園化すると、子育て支援センター、子育て支援業務みたいなものをマストでやらなくてはいけないと思うのですが、今、さくらこども園と御前崎こども園、北こども園については子育て支援センター業務というのが、設置されているのですよね。

- センターを設置しなくてはいけないということはないです。業務はしなくてはいけない、相談業務は受けなくてはいけないのですが、センターを設置しなくてはいけないということはありません。

○子育て力を上げなくてはいけないということで、各学区内に相談する窓口を作っているけど、まだそれでもやっぱり足りないという考え方ですか。

- 足りないというよりも、増えてきているので、やっぱりつなげていかななくてはいけないところは、以前よりは多くなってきていると思います。
- 今、園の子供の背景にある家庭の教育力の対応にいっぱいいっぱい、学区で園外からの相談があれば、そこは対応しますが、申し上げていることは園内のということなんです。

○子供は預けているけど、その預けているお宅の家庭教育力が低いということですか。

- 0歳や1歳で預けられる子もいて、保護者も親として1歳くらいの経験しかありません。経験がある人から見れば親として未熟だと感じて、その経験しかないのでは仕方ないと思っています。毎日送り迎えのときにお話をしたり、連絡ノートを使ったりして、実際の子供の育ちを伝えながら、保護者とそれを共有して子の成長していく喜びとかを味わってもらって、親になっていくことが必要ですが、愛着とかの1番基本的なところの形成ということも本当に未熟で、そこさえもできないというおうちも増えてきています。そこからやっていくというのは、すごく苦労があります。やはり、核家族化の影響などが結構響いていると思います。そういう点で、やっぱり家庭教育の低下というのは、10年前よりは下がっていると思うし、もしかすると5年前よりかなり下がっていると思うくらい低下しているのではあると思っています。

○学校教育課長

保育士不足をどう解決をしていくのかというのは、小中学校も同様です。例えば、小中学校の採用試験を受ける割合が、だんだん減ってきている問題をどうしていくのかということにも直結しているのかなと思います。学校や園の先生のブラックなイメージを少しでも改善していけるように、働き方改革などで努力をしていくことが、今、予算をかけずにやれることとしては、園も学校も共通していることだと感じますが、それでは根本的な解決につながらないと思っています。やはり、定数の改善なども国のほうでも議論されていますが、現場の実態の課題とはずれて動いているような印象があります。なかなか根本的な解決にはつながらないのですが、私たちは、子供たちが安心安全に生活できるように、職員は大変なんだけど、やりがいを感じながら、気概を持って保育や教育をしていくしかありません。教育委員会事務局としては、少しでも園の先生が働きやすい環境ができるように、それから保育の質が確保できるように研修の充実を図っていくような支援を続けていくしかないと思いました。

○こども未来課係長

今日、急遽代理で出席しています。日頃の業務から園の先生たちの苦労は重々承知しています。待機児童も出ている中で、定員いっぱいまでお願いできないかと、無理をお願いすることも多いのですが、これからも現場の先生がたと協力しながら進めていけたらと感じています。

○教育部長

最後、話題になっていた家庭教育についても、先ほど、核家族という言葉も出ましたが、以前と比べて、今は家庭というより親教育になってしまっていると感じます。以前は、家庭の中に祖父母が同居していたり、近くにいたりして、家庭内で親の教育をする立場で係わる人間もいたりして、親の他に子供と係れる大人がいたものですから、家庭教育ができあがってきたと思います。そういうところを補っていくためにも、社会教育課で家庭教育支援員とか、今、いろんな場で親子の活動の支援をしています。少しでも力になれるものが教育委員会で今後もできていければ、もう少し家庭教育が進むと思います。

○教育総務課長

幼児教育研究会を続けていらっしゃいますが、やっぱり予算の関係とか設備、制度の関係がどうしてもありますので、園長先生だけの会議の中では解決しきれない問題というのは当然あると思います。この会を続けていくのであれば、担当課長や担当係長とか、行政側の人間を入れて問題解決の方法を探っていく必要がこれからはあると思いました。

○教育長

挨拶で共通理解とか現状把握と言いましたが、もうそこまでしか今、できないのではないかと思います。末端のところが一番、政策の矛盾というか、苦労を背負い込むようなことがどういう分野にでもあると思うのですが、これについても、子供というよりもむしろその保護者の働きやすい環境、労働力としての確保を言っていくと、そちらが中心になって無償化とか何かが始まってくると思うのですが、そうすると、では子供たちの育ちというのはどうなんだろうということころへいきます。報告にも、サービスの対象は親で、預けられる子供にとっては不利益ということが書いてありますけれども、幼児教育、乳幼児教育を充実するというと、ルールや規制を緩和して、施設をつくりやすい方向に持っていくけれども、きょう、ずっと話題になっている、預けられた子供の面倒を見てくれる保育士のことはどうなるのといったときに、そこは手付けずになっています。それが結局、きょうの大きな課題のところにも来ていると思います。それなら市独自で、保育士にまた別の待遇を考えればいいのかもかもしれないけれども、待遇をよくしても候補者がたくさんいるのかと考えると、先ほど民間のことが少し話題に出ましたが、市内の民間園にいるかといえ、やはりいないと思います。募集しても来ないということもあるので、全体的に本当に、今、保育士が足りないことが1番のポイントだと私も思っています。そこへなおかつ、預かる時間が長いし、今いる保育士に責任とか負担がかかってくるし、個別に課題のある子供も増えているしということがあります。条件は悪くなる一方で、保育者がいない矛盾というか、大きな課題があると思います。

では、私たちとしては何ができるかという、先ほど学校教育課長が言ったように、今ある環境の中でやれることを考えてやっていくしかなくて、名案はないと思います。ですが、やはり知らずにいるというのはよくないので、園の先生がただで話し合っているのではなくて、今日のように現状をみんなに報告をして、理解を広げることは、次の策を考えるうえですごく大事なことだと思います。そういう点ではこの会は、十分価値のあるものだし、私たちも勉強になったことが、たくさんありますので、また他の人に伝えていく必要があるかなとも思っています。課題がある程度はつきりしているので、それが少しでも進むような形は考えていかなければいけないと思います。ありがとうございました。

5. 閉 会